

ケンブリッジ大学での私

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学政治経済学部 公開日: 2012-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 百瀬, 恵夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/12498

ケンブリッジ大学での私

私は本学の在外研究員として、昨年四月から一年間ケンブリッジに滞在した。ケンブリッジ大学の招請を受けて、ベンチャー型企業と経営者に関する日英比較を共同研究するのが目的であった。

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と共にイギリスはもとより、世界的に最も高い評価を得ている大学であり、これまでにノーベル賞学者を六〇数名輩出している。

ケンブリッジ大学の組織は実にわかりにくい。この大学は、三四のコレッジから構成され、いくつもの学部へは各コレッジの学生が講義、実験、実技を受講する仕組みであり、各コレッジの学生は、全寮制での生活が義務づけられている。

百瀬 恵 夫

各コレッジは、ケンブリッジ大学の最低入学資格条件を満たす者の中から独自に入学者を決定しているが、きびしい面接試験（二人の教官が一時間以上にわたって口頭試問する）は超難関である。入学後は少人数グループによる教育で、日本ではとうてい想像できない。

私はこの度、ウルフソンコレッジ (Wolfson College Cambridge) のビジティングフェロー (Visiting Fellow 以下VF) に選任されたが、その承認式の模様について記したい。

五月七日の理事会 (Governing Body Meeting) で正式にVFの承認手続を取るという通知を受けた。三名の外国人学者と私の四名がVFの対象者であった。事前に服装については、背広とガウン着用が義務づけられ(そのために私はガウンを新調せざるを得なかった)、

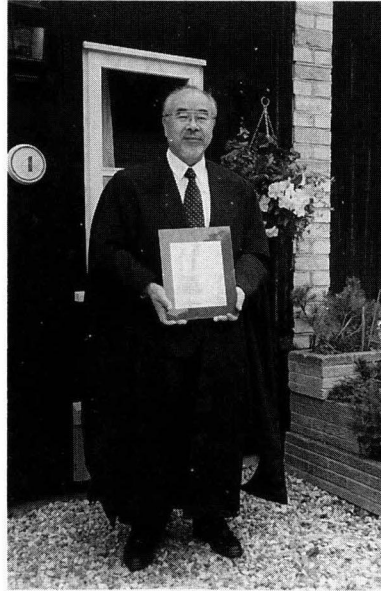
学長室で学長、副学長と四名のVFがワインで乾杯し、議事進行についての打合せを行った後、歴代VFの名簿にサインした。そして、予め用意されていたVF承認の宣誓書に学長、副学長のサインがなされており、そこに私のサインを求められた。

その宣誓書は、『学則DⅢに基づくVF承認の宣誓』というもので、内容は、「私百瀬恵夫はウルフソニックのVFに選任されました。私は厳粛に次の事を誓います。私は力の及ぶ限り、誠実に大学の学則と諸法規を遵守し、教育、学習そして研究の場を通じて大学の発展に努めます。」というものである。

定刻に記念会館に導びかれ約五〇名が出席（全員がガウン着用）する理事・評議員の前に四名のVFが並び、一人ずつ学長の前に起立して宣誓書を朗読した後、学長が出席者全員に承認（全員拍手）を求めて正式にVFとして認められた。私は、これまでの人生で最も感動的な時と所を得ることができ幸せであった。

目下、ベンチャー型企業の経営者についての両国の実態調査に基づいて日英比較を行っている。この成果については、すでに百瀬、ウィッタカー、森下の共著による『中小企業これからの成長戦略』（東洋経済新

報社、一九九九年一月）として公刊され、年内にはケンブリッジ大学出版部より、ウィッタカー、百瀬の共著で公刊される予定である。



本稿は、本学広報部発行の「明治大学広報」向けに執筆されたのですが、掲載に難色を示す向きもあることを仄聞しましたので、本誌への掲載を筆者にお願いしましたところ、快諾を頂いたものです。

なお、本誌掲載に際し、執筆時期と刊行時期にズレが生じましたので、筆者に加筆修正をして頂きました。

「政経フォーラム」編集委員会